

第11回菊川水系流域委員会での 指摘事項とその対応

令和4年9月14日

国土交通省 中部地方整備局
浜松河川国道事務所

(1) 第11回菊川水系流域委員会 指摘対応表

●第11回菊川水系流域委員会 指摘対応表

No.	項目	意見・指摘事項	回答	対応
1	菊川水系河川整備計画の進捗状況の点検	菊川下流の流下能力が低下した要因は何か。	河口部の土砂堆積の影響だが、洪水時は砂州がフラッシュされると想定している。	回答済み
2		菊川の工事後箇所でも整備計画目標流量には達していないが、今後も対策を行うのか。	令和3年度も引き続き掘削を行い完成断面まで工事を行う。	回答済み
3		現在の河道計画の考え方は、河口部の砂州がフラッシュされることを想定しているが、海面水位の上昇に伴い、今後砂州高も高くなるのが懸念される。河口部での流下能力の低下は全体に影響を及ぼすことになるのでしっかり検討されたい。	河川整備計画では、河口潮位と砂州の高さから、出発水位を砂州の高さで決めており、近年の海面水位の上昇の影響はこの余裕の中に納まっていることを確認しているが、引き続き検討を行う。	R3より河口砂州調査を開始。今後河口砂州が治水に与える影響を検討していく。
4		現在の河口砂州の状況は、固結化しているような状況なのか。	平成10年9月の出水では河口砂州がフラッシュされたが、近年はフラッシュされていない。今後砂州の状況と上流への影響について確認していく。	R3より河口砂州調査を開始。今後河口砂州が治水に与える影響を検討していく。
5		水質の経年変化については年平均値を整理しているが、観測値のばらつき度合などの分析等による整理も行うとよい。	環境基準に従って、1年間の月一回測定した75%値を示している。引き続き観測データの分析を進める。	今年度委員会資料のグラフに最大値、最小値を追加
6		大井川用水からの取水以外で、利水に関する課題は確認されていないか。また、菊川流域治水プロジェクトの関係者である農業関係機関等とは意見交換を行ってほしい。	菊川では飲料としての利水はないため、課題は特にない。菊川流域治水プロジェクトでは田んぼ貯留を推進しているため、関係機関及び農業従事者との調整や意見交換を行っており、引き続き進める。	回答済み
7		河道掘削土砂の使い方や、掘削に伴う環境影響について整理しているか。低水路掘削の際には環境に配慮していただきたい。	近隣に掘削土砂の有効活用箇所があれば再利用しているが、土砂の組成が良くないものは埋立地で処分している。また、菊川では魚類の貴重種がいないため低水路掘削では特に配慮していないが、貴重種の両生類等が生息しており配慮しながら工事を進めている。	回答済み
8		牛淵川では近年、水質環境基準を満足しているものの水質が悪い方向で安定しているように思う。どういう状況なのか。	75%値の評価では環境基準を満たしている状況ではあるが、観測データそのものを分析して、汚濁源について関係機関と連携して確認していきたい。	回答済み